

旗 反

共産主義者同盟

発行所/著者 社
編集人 伴代 発行所 川崎文
東京都新宿区百人町2-16
13 小林ビル808号(地下鉄有楽町線)
電話03(362)0149/雑用
東京162856番(宛先共済同)
「旗」編集委員会 岡西君
氏社 電話06(541)4803

発行所変更のお知らせ
12月5日発行の本号より、発行所を「旗」編集委員会より「旗」編集委員会に移すことになりました。なお、郵政特准つきまわりの関係、従来通り「旗」編集委員会宛先での発行をお願いいたします。
定額増額発行についてはなるべく年内にお願いいたします。

若疑シク覚候ハバ
我等ノ所業終候処ヲ
爾等眼ヲ開テ看ヨ

革命運動の現下の壁の壁を把握し血路を拓け

戦後秩序拡散下の歴史と主体情況を透視せよ

戦後秩序の崩壊と拡散は、日本社会に深刻な影響を与えている。この歴史を透視し、現在の主体情況を把握することは、革命運動を進める上で不可欠である。戦後の日本は、経済的豊かさを達成したが、同時に社会の分断と階級化が進んでいる。この状況を打破し、新たな社会秩序を築くためには、徹底的な階級闘争が必要である。本誌は、この歴史を振り返り、現在の社会情勢を分析し、革命の道筋を示すことを目指している。

石油危機の根因と 国家間対立の水準

石油危機は、単なるエネルギー問題を超えて、国際政治の構図を大きく変えている。中東情勢の悪化は、石油供給の不安定さを招き、世界経済に打撃を与えている。この背後には、大国間の覇権争いがある。日本は、石油輸入に依存しているため、この危機に深刻な影響を受けている。国家間対立の水準が高まっている中で、日本は自衛と生存のために、毅然とした態度を示す必要がある。本誌は、石油危機の根因を掘り下げ、国際情勢の動向を分析している。

ダムな日本一民衆 と革命の世界史像

日本社会は、高度経済成長を遂げたが、同時に社会の硬直化が進んでいる。民衆は、生活の安定を求め、社会変革の動きを抑制している。このような状況は、革命の発展にとって不利である。世界史の観点から見たら、社会変革は常に民衆の闘争によって進められてきた。日本でも、民衆の目覚めと闘争が、社会の進歩を促す鍵となる。本誌は、日本の現状を批判し、世界史の教訓を説いている。

当局一革マルを串刺す 主体の極北、戦闘のリアリズム

当局は、革マル勢力を徹底的に弾圧している。しかし、これは革マル勢力を根絶しきれない。主体の立場から見て、戦闘のリアリズムは、社会変革の唯一の道である。革マル勢力は、このリアリズムを堅持し、階級闘争を徹底的に進めなければならない。本誌は、当局の弾圧を批判し、革マル勢力の闘争を支持している。

12月13日 代々木八幡区民会館
12月16日 大阪府立教育会館
12月16日 大分県立教育会館
12月16日 大分県立教育会館

13首都圏—16関西総決起集会へ

12月13日 代々木八幡区民会館
12月16日 大阪府立教育会館
12月16日 大分県立教育会館
12月16日 大分県立教育会館

早大粉砕闘争報告
早稲田大学の学生闘争は、当局の弾圧に激しく反応している。学生たちは、徹底的な闘争を継続し、社会変革を求め続けている。本誌は、早大の闘争を詳しく報告している。

冬期一時金三割 カンハを要請す

冬期一時金の支給が、労働者の生活に大きな影響を与えている。一部の労働者は、支給額が減少している。労働者は、支給額を元の水準に戻すことを要求している。本誌は、労働者の要求を支持し、政府に要請している。

学費値上げ阻止—管理支配体制解体
大学の学費値上げは、学生生活に深刻な影響を与えている。学生たちは、学費値上げを阻止することを要求している。本誌は、学生たちの要求を支持し、大学の管理体制の解体を主張している。

青学大闘争連日貫徹！
青学大の闘争は、連日激しく進んでいる。学生たちは、徹底的な闘争を継続し、社会変革を求め続けている。本誌は、青学大の闘争を詳しく報告している。

事実経過と我々の立場について次号詳細
本誌の掲載記事について、事実経過と我々の立場を詳しく説明する。次号に掲載予定である。

若疑シク覚候ハバ
我等ノ所業終候処ヲ
爾等眼ヲ開テ看ヨ

